

平成 24 年度 第 3 回京都市上下水道事業経営評価審議委員会議事録

日 時 平成 25 年 1 月 23 日 (水) 午後 2 時 ~ 3 時 30 分

場 所 京都 JA 会館 (京都市南区)

出席者 (五十音順 , 敬称略)

1 委員

越後 信哉 (京都大学准教授 (大学院工学研究科))
西村 文武 (京都大学准教授 (大学院工学研究科))
野上 幹夫 (公益社団法人京都工業会理事・事務局長)
林 しげみ (上下水道サポーター)
前岡 照紀 (税理士)
水谷 文俊 (神戸大学教授 (大学院経営学研究科))

2 京都市

管理者 , 次長 , 技術長 , 総務部長 , 総務部経営改革担当部長 ,
技術監理室長 , 水道部長 , 下水道部長
事務局 (総務部総務課)

次第

1 開会

- (1) 委員長あいさつ
- (2) 会議の公開等について

2 上下水道事業経営評価制度等に関する意見 (案) に関する審議

3 閉会

内容

1 開会

(1) 委員長あいさつ

水谷委員長： 本日は皆さまの意見のとりまとめを行いたい。何かあれば付け加えるなど、良い案ができるようにしていきたいと思うので、最後まで御協力をお願いしたい。

(2) 会議の公開等について

事務局： 資料の説明（資料1，資料2，資料3）

水谷委員長： 本日の会議は公開とし、議事録については、後日公表することとする。

第2回委員会の議事録については、資料3記載のとおり承認することとする。

2 上下水道事業経営評価制度等に関する意見（案）に関する審議

事務局： 資料の説明（資料4，資料5）

（上下水道経営評価冊子について）

水谷委員長： では、資料4に基づき1つ目の項目「上下水道事業経営評価冊子について」から順にご意見を出して頂く形で進めていきたい。表現が柔らかくなったりしており、発言と全く同じ表現にはなっていないところもあるので、お気づきの点等あればお願いします。

林委員： 概要版について、昨年度の意見にもあったが、見やすい色遣いなど工夫されているので、そのまま「改善できている」と書いてもいいのではないか。また、評価の表記をA～Eの記号で表しているが、「達成している」や「概ね達成している」などの表記の方が分かりやすいのではないか。

水谷委員長： このことについて、事務局としてはどうか。

京都府市： 審議委員会の御意見としていただければよいと思う。例示として記載することなど検討いただきたい。

越後委員： Aという表現は、場合によっては想定を超えて優れている、目標を超えているというニュアンスを与えかねない。この評価は達成度の評価なので、必ずしも基準を超えているというわけではないので、Aという表現をしたときに違う解釈を与えてしまう可能性があるので表現を検討してはどうか。

水谷委員長： 要は分かりやすい表記にすべきという意見だと思う。いろんな表現を使いだすと分かりにくくなるので、分かりやすい表記の仕方を検討していただきたい。

(今後の経営評価のあり方について)

前岡委員： その時宜に応じた目標設定について言及されていない様に思える。山梨県のトンネル崩落事故などのように急な計画の修正が強いられるような場合や計画が変わったときにどうするかということが話し合われていたが、あまり反映されていない。

京都市： 事務局としては、毎年度、局の運営方針、事業推進方針を立てて時宜に応じた目標設定をしている。一方で、一年ごとの評価も重要だという意見をいただいていることもあり、第二段落において、「個々の事業を1年ごとに区切り、単年度の目標に対する達成度を評価することは、災害や事故など様々な状況の変化への対応や、事業の着実な推進のために必要である。」という文面で表現している。

水谷委員長： 公的セクターでは、計画を臨機応変に変更することが難しい状況があるかと思うが、もう少し臨機応変な対応ができるというような表現を強く出すべきだと思う。

前岡委員： 公的セクターについては、臨機応変に計画を変更することが難しいということは理解できるが、書きぶりについては、審議会での議論も考慮し、変更していただきたい。

水谷委員長： 公的セクターには、良いところと悪いところがあるが、良いところはそのまま続けて、状況に合わせて臨機応変に対応できるような体制ということを一つのセンテンスとして独立させ強調してはどうか。

(経営評価の効果的な広報広聴について)

水谷委員長： 特にご意見が無いようなので、次の項目に移る。

(上下水道局企業改革プログラム)

水谷委員長： 繼続的に取り組まれているものだが、更に付け加えるべき点などあるか。特に無いようであれば、全体を見渡して抜けている項目や、足りない部分について項目に捉われず、ご意見をお願いしたい。

(意見書全体)

林委員： 情報発信の関連で京都市指定業者が工事に行くときに手渡しで経営評価の概要版などを配ったりすることで、市民の声を吸い上げることができると思う。

また、私たち上下水道センターについても料金アンケートのときのように概要版を配るというような協力ができると思う。

京都市： 情報発信についていくつか具体的な提案をいただいたが、意見書に「効果的な情報発信に取り組まれたい。情報発信と合わせて様々な工夫をされたい。」と書いていただいているので、その具体的な例をいただいたということで、できることから始めていきたい。

水谷委員長： 非常に具体的な声を引き上げる良い方法だと思う。意見書に書くかは別にして是非活用していただきたい。

前岡委員： 意見書冒頭の三行について、これまでの委員会を振り返ってみると、冊子の内容に関してはほぼ改善が図られ充実しており完成形に近付いているということが委員の間でも異口同音に言われてきた。この委員会も次のステップに上る時期がきているということで全二回の委員会では、経営評価審議委員会のあり方や広報広聴について話し合いがなされたということを鑑みるとこの三行の説明の仕方は弱いのではないかと思う。よって、次のステップに移行していくという話をまとめていただき、詳細には4項目で説明してもらうというような書きぶりにしていただいた方がよいと思う。

水谷委員長： まったくその通りだと思う。この委員会も何年も続けており、最初に比べると意見も出ず、審議をつくしている状況にあるので、そろそろ脱皮していかなければならない。冒頭部分には、先ほど前岡委員がおっしゃったような内容を書いてはどうか。経営評価冊子において、これ以上何かするというのはかなり細かい内容となってしまうので、概ね完成形に近付いているところで、今回出てきた意見について改善を図るということを書いていただければよいと思う。

他に意見等が無いようであれば、先ほど言わされたように冒頭の前文については文章に修正を加え、その他の修正意見が出た部分は文章を追記するなどしていきたいと思う。

本日頂いた意見を基に、修正充実等を行い、後日私の方でチェックしたものを委員の皆様にご確認いただき、当委員会の意見として提出したいと思う。

今回の議題に関してはこれで承認いただくということで終えたいと思う。

(24 年度委員会を踏まえての各委員所感等)

水谷委員長： 審議を終えるにあたって，委員の皆様から，経営評価に限らず何かこういうことを考えたらどうかという意見や感想をいただきたい。

西村副委員長： 今回，委員会に参加させていただき，大学の研究所で開発をしている立場としては，新鮮であった。意見については，素人意見だったかもしれないが，反省する部分もある。上下水道事業に限らず，様々な会議があるが，毎年事業などを進めていくことと 10 年，20 年先をどうしていくかということを絶えず議論していく場がある。そういうことをもっと積極的に行っていきたい。そのようなことは，日本ではあまり行われていないように思うので，長いスパンで考えるという議論の場があれば，もっと別の視点から意見が出ることもあり，何か機会があれば私もそういったものに関わっていきたいと思う。

越後委員： 今回の意見を見てみると各段落の末尾に「検討されたい。」という文言が多く見られ，委員会でまとめられなかった部分もあり，我々の限界ことがある。また，委員会が成熟していくに従って，上下水道局の仕事のあり方に立ちに入る様な状況になってきていい中で，評価制度や委員会のあり方についても考えていただきたい。この経営評価の冊子は，本当に日本全国，世界に誇るべきものなので，是非市民の皆さんに周知することと，局の中での資料として使うこと，この 2 つの目的に沿って，是非うまく活用されるような仕組みを整備していただきたい。充実したものになっているので，役立てていってほしい。

野上委員： 昨年からこの委員をさせていただいているが，それまで水道のことを全く考えたことがなかった。何かしら役に立ちたいと思い，この委員会に出席するようになってから，大口使用者に当たる製造業が集まっている京都工業会の中で関係の方に話を聞くようになった。工業会の環境委員会という場で適宜情報を流すなど，広報について協力させてもらっている。

また，前回の委員会で出たマスコットキャラクターの「澄都くん」と「ひかりちゃん」もこの委員会に来て初めて知った。現在，ゆるキャラがはやっているので，是非もっと活用していただきたい。

前岡委員： 私は税理士という立場なので，公と民間の中立的な立場であり，公と民間の良い部分がよく理解できる。そのような中で，この委員会に関しては，本来の目的についてある程度達成してきていると思う。次のステップアップとして新たな方向に進んでいかなければならないのではとつくづく感じた。また，やはり厳しい経済状況の下，公も民間に近付いて行かないとならないし，民間もグローバルス

タンダードとして公の仕組みをもっと勉強していかないといけないと、この委員会を通じて実感した。いい勉強をさせていただき、ありがとうございました。

林委員： 経営評価というのは、上下水道局の皆さんのがんばりの1年間の仕事とこれからの指針が入っているものである。これを分かるように書いても、やはり関心を持って見ていただかなければ意味がないと思うので、関心を持っていただけるようコミュニケーションなど図っていただきたい。もう1点感じることは、京都市というのはとても知名度が高くブランド都市だと思うので、京都市職員という肩書はどこの都市にも負けないし、堂々と働いていただきたいと思う。また、今回は、局長さんが全会とも出席いただき、とても心強く感じた。感謝したい。

水谷委員長： 私も長く参加させていただき、京都のことをとても勉強させてもらった。最初のころから比べると、たくさんの改善が図られ、完成形に近付いていると思う。次に何をするのかということも事務局とも話をし、もう少し検討していただくこととなっている。委員会をするのが目的ではなく、より良いサービスを市民・企業に還元していくことが目的なので、それを実現できるような形にしてほしい。特に水道は他と代替がきかないので、その責任はより重大だと思う。京都市は他都市と比べまじめだが、まじめだけではいけないところもあるので他の事例や改善すべきことも含め、より良い形になればよいと思う。来年度も開催されることになると思うが、この委員会のあり方も含めてさらに発展させていくことを強く希望する。

3 閉会

京都市： 委員の皆様方には日ごろから水道事業、下水道事業に大変な御理解をいただき、三回の委員会にわたり、「今後の経営評価のあり方について」、「経営評価の効果的な広報広聴について」を焦点に貴重なご意見をいただき、感謝を申し上げたい。経営評価については一定の充実を図ってきたが、私共はこの内容を市民の皆様にしっかりと御理解いただいたうえで、ここでいうA評価が並ぶような事業推進に汗をかいていきたい。京の水ビジョンも今年度が中期経営プランの締めくくりの時期であり、今まさに次期5箇年の経営計画の策定の大詰めを迎えていた。来年度は、料金制度の改革、環境問題、災害対策などの視点を盛り込んだ次期経営計画が始まるので、新たな上下水道事業のスタート地点に立つことになる。行政は目の前の5箇年に視点をあてるだけでなく、老朽管の更新にあたっても10年後20年後、市民の皆様へ安心して常に安全な水を供給ができ、下水道の活用をしていただけるような体制が何よりも大事である。これを一つひとつチェックしていた

だきながら、臨機応変な対応ができる組織作りにも全力を注ぎたい。皆様方から
いただくその都度のご意見が私共の宝であるので、これからも皆様方からの御指
導を賜りながら、平成25年度から始まる次期経営計画を万全な体制で進めてい
きたい。この3回にわたる審議委員会での皆様方のお力添えに感謝を申し上げて、
御礼の御挨拶とさせていただきたい。